

今後の行事予定 event schedule



3月1日
みゆきの里
創立記念式典

※写真は昨年(2014年)の式典の様子です

担当医表 charge medicine table

		月	火	水	木	金	土
第1診察室	午前		江頭			江頭	
	午後						
第2診察室	午前	津出	吉田	金場	師岡	吉田	担当医
	午後	師岡	本田	高野	高野	津出	
第3診察室	午前	馬場	馬場	馬場	馬場	馬場	
	午後			和田山			
鍼灸治療室	午前	長尾			長尾		
	午後		長尾		長尾		
歯科1	午前	田川	田川	田川	田川	田川	田川
	午後	田川	田川	田川	田川	田川	

- 統合医療センターについては御幸病院総合受付でお尋ねください
- 王研究員の漢方相談…毎週水曜日の午前・午後 毎週木曜日の午後(15:45～)

長尾名誉院長 外科(鍼灸漢方)・健康相談を担当します。

馬場総院長
吉田院長
津出診療部長
川野リハビリテーション部長
本田消化器・内科医長 内科を中心として、種々の診療を担当します。
高野内科医長
金場リハビリテーション医長
師岡循環器・内科医長

磯貝緩和ケア診療部長 緩和ケア病棟を担当します。
緒方緩和ケア診療部・内科医長

江頭医師 呼吸器・アレルギー疾患・心療内科を担当します。

和田山医師 整形外科を担当します。

田川歯科医師 歯科を担当します。予約が必要です。

- 緩和ケア入院相談 月～土 8:30～17:30(随時)
- 相談窓口：地域医療連携センター

ニュース news

第15回熊本オーガニックの祭典
ゆうきフェスタ

去る11月16日(日)、熊本県農業公園カントリーパークにて開催された「第15回熊本オーガニックの祭典 ゆうきフェスタ」に、みゆきの里も出店いたしました。

当日は、県内各地から有機農産物とオーガニックフードの店が大集合するオーガニックマルシェを始め、ワークショップ、ライブ、トークショーなど様々な催しが開催され、食と健康について楽しく学ぶことができるイベントとなっていました。

みゆきの里からは、掘りたての新じゃがなどの有機野菜を丸ごと使った「オーガニック野菜のおでん」、ビオ・サルデーでも提供している「走る豚のサルシッチャ(ソーセージ)」、「健脳ふりかけ」、栄養豊富で珍味としても珍重される「やまぶし茸」を販売。毎年みゆきの里ブースを目当てに来られる常連さんもおられ、おかげさまで完売いたしました。



News!

みゆきの里通信

人が人をおも。人が人をつつむ。



Vol. 26

2015 winter / 御幸病院広報誌

変化を見据え、未来を切り拓く



合言葉は“質の高い
情報共有”

～医療の輪で、健康と命の尊厳を支えます～

医療法人博光会
御幸病院

【診療科目】
内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・漢方内科・リハビリテーション科・心療内科・アレルギー疾患内科・小児科・歯科・麻酔科(ペインクリニック)
【医師：岡崎止雄】

【診療受付時間】
平日 午前8時30分～午後5時
土曜 午前8時30分～午後12時
※但し急患は何時でも受け付けます。



詳しくはホームページをご覧ください <http://www.miyukinosato.or.jp/>

- 【施設概要】
- 緩和ケア病棟：20床
 - 一般病棟 30床(うち地域包括ケア病床14床)
 - 回復期リハビリテーション病棟：60床
 - 医療療養型病床：76床
 - 併設：訪問看護ステーション「みゆきの里」御幸病院訪問介護事業所

発行/医療法人博光会 御幸病院
〒861-4172 熊本県南区御幸苗田6-7-40
TEL:096-378-1166 FAX:096-378-1762
メールアドレス info@miyukinosato.or.jp
ホームページ <http://www.miyukinosato.or.jp/>

みゆきの里
グループ

- 軽費老人ホーム 富貴苑
- 特別養護老人ホーム みゆき園
- 地域密着型特養 みゆき東館
- 介護老人保健施設 ぼたん園
- ケアハウス ピオニーガーデン
- ウェルネススクエアアー和楽
- 小規模多機能ハウス ほからか
- グループホーム ほからか
- サービス付き高齢者向け住宅 サンシティハウス
- レストラン ビオサルデー
- 駕町通り ケアガイドセンター
- 熊本市高齢者支援センター ささえりあ平成





みゆきの里 会長
医療法人博光会 理事長
富島 三貴

みゆきの里通信26号をお届けします。
あけましておめでとうございます。平成27年も、御幸病院とみゆきの里をよろしくお願いいたします。
平成26年4月の診療報酬改定で「地域包括ケア支援病棟・病床」が新設されました。
御幸病院では、急性期病院を退院され術後の症状管理や、地域のクリニック・施設・在宅からの緊急対応などを行い、在宅復帰や施設転院支援を目的に開設しました。地域包括ケア支援病床数を昨年6月に10床開設、同10月に14床へ増床、今年春には30床へ増やす予定です。

急性期病院や専門病院、クリニックの先生方との連携強化など、地域包括ケアのネットワークを強化するために、新病床・病棟の開設に伴う病床再編成を行っております。これまで以上に病病連携・病診連携が重要となっていくと認識し、さらに患者様の受け入れや退院支援は細心の配慮をしながら取り組んでおります。情報の発信・受信、そして共有を重視し、患者様・ご家族様の安心と医療機関同士の質の良い連携を合言葉にしています。昨年4月に組織としてスタートしました地域医療連携センターもさらに業務の見直しを図り、前方支援・後方支援を多職種で統合し機能を一本化いたしました。今後ますます、各医療機関や施設の方々、地域の皆様と連携・協力し、つなぎ目の無い医療・介護を受けることができるサポート体制を目指してまいります。

人が人をおもう。人が人をつつむ。



特集

P2 変化を見据え、未来を切り拓く
合言葉は“質の高い情報共有”

- P1 会長挨拶
- P2 特集
- P5 新年のご挨拶
- P6 みゆきの広場
- P7 今後の行事予定／担当医表／ニュース

変化を見据え、未来を切り拓く



合言葉は“質の高い情報共有”

厚生労働省が推進する“地域包括ケア”は、全国の医療機関や支援施設を大きく変えつつあります。加速する高齢化社会に向けて、当院に課せられた役割とは？
昨年、新たに誕生した「地域包括ケア病床」の取り組みを通じてご紹介します。

みゆきの里ボランティア交流会を開催

11月26日(水)、ウェルネススウエアー和楽3階研修室1・2において、第13回みゆきの里ボランティア交流会が開催されました。これは、みゆきの里におけるボランティアの皆様の日頃の活動の労をねぎらい、普段はなかなか接点のないボランティアさん同士や職員との交流を図ろうというもの。交流会には約80名のボランティアさんが出席され、2時間にわたって歓談を楽しめました。



富島会長は、「コミュニティヘルスのあるまちづくりが重要な時代。これからも南部エリアがますます健康で長生きできる地域になっていくよう、皆様の温かなご協力をお願いします。また皆様にも予防のノウハウや知識を知っていただき、是非ご自身のセルフメディケーションにも役立てていただければ」と挨拶。



会場では、統合医療学会九州支部大会での富島会長の講演の際に発表された「統合医療に基づく予防活動の取り組み」についての映像も流されました。その後は、季節の野菜をふんだんに使った田園キッチン東島料理長の料理に舌鼓を打ちながら、楽しいひとときを過ごされました。

今年からぼたん園で囲碁のボランティアをしているという男性(77歳)は、「皆さんが楽しみに待っていてくれるのが嬉しいです。交流会は初参加。自分からの交流は苦手だけど、良い催しだと思います」と話しておられました。

在宅復帰のために 全力を注ぐ 「地域包括ケア病床」

高齢者が重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で暮らし続けられるように、医療・介護・予防・生活支援を提供する地域包括ケア。その中で、重要な役割を担っていかなければならないのが、『御幸病院』でも昨年6月に運用を開始した地域包括ケア病床です。「地域包括ケア病床とは、急性期医療の終了後や

在宅療養中の患者様が、すぐに在宅や施設へ移行するには不安がある場合に、在宅復帰に向けて診療・看護・リハビリを中心とした包括的な支援を行っていく機関です。一般病棟や回復期リハビリテーション病棟と異なるのは、原則的に60日以内の入院期間、70%以上の在宅復帰率を目指すという制限があることですね」と説明してくれた吉田院長。一見、同じく在宅復帰を目的とする回復期リハビリテーション病棟と似ているようですが、回復期リハ病棟が脳卒中や脳梗塞の後遺症を中心とした運動器の機能低

下に特化しているのに対し、多様な疾患を受け入れるのが地域包括ケア病床の特徴。「複数の持病を抱えておられる患者様も多いですから、それぞれの専門分野を生かした医師間の協力も欠かせませんね」。

短期間で回復・リハビリ・在宅復帰後の生活を見据えた準備も行わなければならない地域包括ケア病床。在宅と病棟医療のかけはしとして、より質の高いケアが要求される中、どのような取り組みに力を入れているのでしょうか。

急激な変化に対応しつつ、 変わらない信念も大切に

「医療費の削減や高齢者のQOL(生活の質)向上のため、国は全面的に在宅復帰を推進しています。今回新しく病棟・病床を設けたこともその方針の一部ですが、実は医療の世界にとって、ここ数年では類を見ないほどの大きな転換点なんです」と、地域包括ケア病床のある南2病棟の師長を務める石原さんは言います。制度の変更に伴い、6月以降の病院全体の入院患者数は昨年までの1.5倍～2倍近くに増加しているのだとか。「50%増という数字のインパクト以上に、業務が増えている実感が強いですね。入院患者様が増えたからといって、急にスタッフも1.5倍に増員…とはなりませんので、業務の効率化や仕組み化を進め、何とかがんばっているという現状です」。60日以内、70%以上の在

宅復帰という高い目標は確かにチャレンジングですが、あまり数字に翻弄されすぎないように心がけているとも。「短い入院期間だからといって、ケアの質が落ちてしまっは本末転倒ですよ。本院の看護師たちは、この忙しさの中でも患者

様一人ひとりを尊重するという基本を忘れてはケアできているなあと思います。手前味噌ですが(笑)」と、病棟スタッフを評価しています。また、当院のキーワードとして何度も登場してきた「多職種協働」も、やはり重要なポイントです。

話し手：地域包括ケア病床



地域医療連携センター
看護副部長
福原 千秋



御幸病院院長
吉田 健



南2病棟 看護師長
石原 千代



地域医療連携センター
医療ソーシャルワーカー
谷口 保代



地域医療連携センター
社会福祉士
堤 信泰



リハビリテーション部
理学療法主任
前田 康徳



理学療法の主任を務める前田さんは「求められているハードルが上がっている以上、単独の職種だけではカバーするのは難しい。多職種のスタッフが情報を共有し、それぞれの力を発揮することで初めて、在宅復帰という目標を達成することができるんです」と俯瞰します。

質の高い情報共有が ケアの質を決める

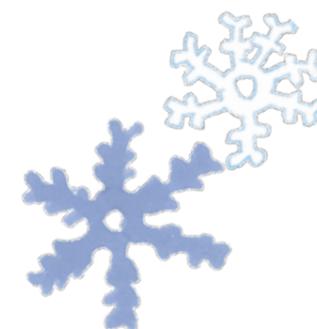
「多職種協働については、地域包括ケア病床に限らず、これまでも当院全体で取り組みを進めてきました。例えば、カンファレンス(症例検討会)の頻度と多様性もその一つです」と前田さん。患者様に携わるスタッフ全員が一堂に会する正式なものに加え、日々の業務の中で隙間を見つけては繰り返すウォーキングカンファレンスなど、短時間で情報共有を行う仕組みが確立されているといいます。

「多職種協働が必須の地域包括ケア病床で慌てずに業務に取り組めるのは、これまで蓄積してきたノウハウがあったから。今後も、より情報共有の質を高めるために何をすべきか、模索していきたい」と前を向きます。

また、院内だけではなく地域との連携も求められている地域包括ケア病床。患者様ご本人とのコミュニケーションはもちろん、介護保険に入っているかどうか、等級によって使えるサービスは何か、経済状況は…それぞれに異なる状況を把握しつつ、地域のケアマネージャーさんや、日頃から利用されている支援施設と協力して入退院支援を行っているのが医療ソーシャルワーカーです。「地域の皆さんが、真っ先に相談できる開かれた窓口でありたい」と語る地域医療連携センターの堤さんと谷口さん。在宅復帰後も継続的に支援を続けるため、入院中に得られた情報を、タイム

な病院やクリニックの先生方が、一つのチームとして地域包括ケアに取り組んでいかねばなりません。そのためにも、連携室が行っている医療機関訪問や勉強会でコミュニケーションを強化していかなければ。やはり“顔の見える連携”が、チームとしての機能向上や患者様の安心感にもつながっていくのではないのでしょうか。

変化に対して後追いするだけではなく、先取りしていく。それが、新たな制度を咀嚼し、地域に求められる医療を提供していく秘訣なのかもしれませんね。



新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年に診療報酬が改定され、新しく設けられた「地域包括ケア病床」を、御幸病院でも昨年6月に10床で開設いたしました。10月に増床して、現在では14床となっていますが、この地域包括ケア病床は、厚生労働省が提唱する「地域包括ケアシステム」において重要な役割を果たす病床です。

地域包括ケアシステムは名前の通り、その地域において高齢者ケアの様々な局面についての、包括的なサービスを提供するものです。医療機関単独ではなく、行政や他の医療機関・事業所とも連携し、これまで以上に情報交換や交互連携が重要となってまいります。

当院では一昨年、地域医療連携センターを新設いたしました。このセンターは、入院についてのご相談や受け入れを担当し、患者様の入院中や退院後のフォローについては、継続療養支援室・相談室が行ってまいりましたが、昨年11月に双方の機能を集約して、新たな地域医療連携センターとして再出発いたしました。

今後は、新しくなった地域医療連携センターにおいて、患者様の入院受け入れから入院中のお悩み、退院後に地域のクリニックでのフォローから在宅サービスの利用まで、切れ目なくご相談に応じられるようになりました。患者様を中心として、御幸病院やみゆきの里の各施設、地域の医療機関や事業所の方々が、スムーズな連携で医療やケアのサポートが出来る体制を目指しております。

今年も地域の皆様の健康と安心に貢献できるよう、御幸病院スタッフ一同頑張る次第です。本年も御幸病院をよろしく願っています。



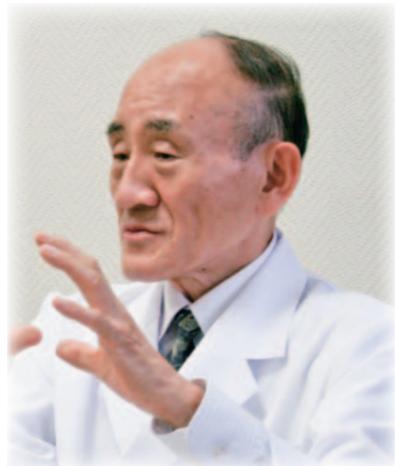
御幸病院 院長
吉田 健

明けましておめでとうございます。皆様にはそれぞれのよい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

御幸病院は昨年、「地域包括ケア病床」を、平成26年6月に10床でスタートさせ、同10月には14床へと増床いたしました。地域包括ケア病床は、厚生労働省が推進する「地域包括ケアシステム」を支えるものとして位置づけられており、より地域の医療機関からの紹介や、地域住民の方々の急変時の受け入れがしやすくなりました。

また、地域包括ケアシステムでは、在宅で療養される方に対するサービスの充実も求められます。当院は開設当初から、創立者である先代会長の理念「福祉の原点は在宅にあり」のスローガンのもと、訪問看護ステーションをはじめとした在宅系サービスに力を入れてまいりました。昨年は訪問介護事業所を新たに設け、今後は訪問診療も重視していく予定です。

最後になりましたが、御幸病院は本年も、患者様とご家族、地域の皆様、他の医療機関・施設の方々と連携を密にし、精進してまいります。今年もよろしく願っています。



御幸病院 総院長
地域医療連携センター長
みゆきの里 総合相談支援センター長
馬場 憲一郎

アロマセラピーに加えて、 ガーデンセラピーに今後注目!

現在発売中のガーデニング誌「BISES(ビス) 2014年冬号」(芸文社)に、みゆきの里の富島三貴会長と昭和大学医学部の塩田清二教授の対談記事が掲載されています。

タイトルは「ガーデンセラピー—最新科学で探る「庭」の力」。
みゆきの里が実践している鍼灸や漢方、アロマセラピーを取り入れた最新統合医療の話題を始め、御幸病院や田園キッチンで育てているハーブや葉草が療養環境にもたらす効果、ファームリハの取り組みなどが8ページにわたって紹介されています。対談相手の塩田教授はアロマセラピー研究の第一人者として全国的にも著名な方で、みゆきの里看護部と「い草ウォーター」を共同開発されるなど、みゆきの里とも関わりが深い先生です。

御幸病院とみゆきの里では、今後もアロマセラピーやガーデンセラピーを活用し、ご利用者のQOL向上を目指していきます。



みゆきの里の広場

根菜のけんちん汁



- <材 料> 4人前
- 大 根 100g
 - 人 参 50g
 - 牛 蒡 30g
 - れんこん 50g
 - 里 芋 80g
 - こんにゃく 1/4枚
 - 木綿豆腐 1/4丁
 - 干椎茸 2枚
 - 塩 小さじ1/4
 - 薄口しょうゆ 小さじ1
 - ごま油 小さじ1
 - 水または昆布だし 4カップ

作り方>>

- 1 材料を切る。野菜を銀杏切りスライスにする。薄揚げは油抜きして細切り。こんにゃくは1cm角のスライスしてボイル。椎茸の戻しは取っておく。
- 2 鍋に火をつける。ごま油少々で牛蒡を蒸し煮する。次に蓮根を入れ蒸し煮する。こんにゃく、人参、大根、里芋を入れ蒸し煮する。
- 3 水を張る蓋はせず。沸騰してきたら火を弱める。灰汁を掬いながら旨みがでるまで煮る。塩・醤油でしっかり味付け。
- 4 豆腐と薄揚げを入れ味を調える。